

徳島と共に四十七年

日興コーディアル

第九訪談

第4回

徳島の経済人とともにこれからの企業のあり方について考える「日興コーディアル第九訪談」。最終回は、株式会社クラッシー代表取締役 植田貴世子さんの登場です。



株式会社クラッシー 代表取締役 植田貴世子さん

心に届くサービスで
ほっこりとした
暮らしのお手伝い

「徳島の女性起業家の代表のような植田さんですが、会社設立のいきさつをお教えてください。」

大学卒業後四年間、アメリカでの就業で、多様な価値観の存在と起業マインドを学びました。起業家の家庭で育ったという内面的要因も重なり、とにかくにも起業で自己実現しようと考えたのです。

創業は一九八六年、男女雇用機会均等法が施行された年で、男性と女性の役割分担が変わりはじめており、女性がしなやかに動き、社会は生活価値重視へとシフトしていった。まさにそんな時代でした。

「女性である」「母親である」「英語を専門としていた」という自分の中の三つの素材を編み上げ、英語と二体化した保育サービスの提供を始めたのです。

生活総合支援事業へと広がり、東京進出も果たされましたが、経営においてもとても大切にされていくはず。起業時から一貫して変わらなないのは生活者視点です。生活者としての自分の必要を事業として形にできます。無形のサービスなどという点で経済社会ではなかなか評価されません。

植田さんですが、会社設立のいきさつをお教えてください。

ですが、女性の切実な思いに支えられ、また時代の後押しもあって、コソッと手込んでくることができました。

「男女（ひと）の社会活動差を継続するための社会環境整備」をミッションとし、「心やわらかに、仕事しなやかに」がモットー。「誰いを救済する」も新しい価値として」というポリシーのもと、誰もがそれぞれの生き方を選びながら、心ほっこりと響かせるように、お客様一人ひとりの多様なニーズに細やかに応えたいと思っています。

行政との連携で立ち上げられた「AWAおんなあきんど塾」の活動は、もう十二年続いていますね。

女性経営者の比率が全面トップクラスという地域特性を生かして、女性という切り口で地域の活性化を図ろうというのが「あきんど塾」です。そのときそのとき社会が問題視していることに目を向け、時代とともに進化しながら活動し、女性起業家の育成とスキルアップを支援し続けています。



「昨年、県内初の受賞となった『男女共同参画担当大臣賞』の『女性チャレンジ賞』は、まさに植田さんにふさわしい賞ですわ。とても思いがけない受賞だったんですが、二十年続けてきた活動が評価されたわけ。ひとつの節目として大変嬉しく受け止めました。と同時に、もうひとふんばり、もっと深めて、今後この賞に恥じないものを残さないといけないなと思いを新たにしています。」

「私もこのミッションは、徳島という地域の価値創造のお手伝いをするのですが、徳島の一番の魅力はなんだとお考えですか？」

「暮らしと心の距離が思いのまま。外から眺めてみても、徳島、海、山川、大地の幸のすばらしさに改めて気付きます。また、お接待の文化が育んできた適度の距離感を保った心遣いは、今、人々が求めている上質のホスピタリティに通ずるものです。第九が徳島で初演されることになった背景にもこのホスピタリティがありますよね。歴史と風土が育んできた暮らしと心の「ほっこりとした上質」こそが徳島の最大の資源です。」

「最後に今後のビジョンをお聞かせください。」

経済価値優先の時代に、生活価値をうたって創業しましたが、社会は変わってきました。生活総合支援事業として、ワークライフバランスのとれた社会の実現のために、自らのライフスタイルを構築しようとする意志のある方へ向けて、さまざまな新しい提案をしていきたいです。

訪談後記

植田社長は、私などが普段気付かない生活者の視点を二〇年以上も持ち続け、事業を大きく成長させてくれました。「クラッシー」のような徳島発の、今まさに時代が求

める分野を切り開いてい



日興コーディアル証券 徳島支店長 澁谷 康雄

